

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	149540003633	事業の開始年月日	平成19年3月1日	
		指定年月日	平成19年3月1日	
法人名	株式会社 生活科学運営			
事業所名	上布田つどいの家			
所在地	( 214-0011 )			
	神奈川県川崎市多摩区布田29-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上布田つどいの家は、「住み慣れた地域で、できる限り暮らし続けるを応援します」を運営コンセプトとしております。1階の高齢者介護支援は、株式会社とワーカーズコレクティブが協力してサービスを提供し、2～3階の賃貸住宅はNPOが共生の住まいを目指して住まい方をコーディネートしております。月2回、1階の地域の方に使っていただくスペースを開放し、「カフェ」を開催、地域の方との交流の機会を積極的に提供しております。また、地域の小学生が定期的に手作りカレンダーを届けてくれたり、交流を続けております。心身機能の維持、予防として介護予防体操、口腔体操、音楽療法、アクティブ活動に積極的に取り組んでおります。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年3月7日	評価機関 評価決定日	平成23年4月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**《事業所の優れている点》**  
 ◇当事業所は、地域との連携の強化を目指して1階に「グループホーム」と「小規模多機能施設」を、2、3階には「賃貸住宅」を複合施設として運営し、入居者相互間、ならびに住民との交流を積極的に推進している。  
 ◇居室には全てトイレと洗面所が設置され、また南側は広い縁側で居間に通じており、個人のプライバシーを尊重しながらゆったりと寛げる住環境を提供している。  
 ◇身体機能に支障がある利用者には、生活リハビリを行い寝たきりにしないケア、身体拘束のない介護を徹底している。

**《事業所が工夫している点》**  
 ◇当事業所は「ワーカーズコレクティブ」と共同運営しており、ワーカーズコレクティブのメンバーがスタッフのため、職員は共に働く意識が高く、理念を共有し働き甲斐を持って介護に従事している。  
 ◇小規模多機能施設の利用者が散歩と称して廊下伝いに訪れたり、地域交流スペースの「カフェ」でティタイムを楽しんだり、利用者間で自然に交流ができるように配慮している。  
 ◇町内会との相互防災協定を結んでおり、一方的な支援を受けるだけでなく緊急時の食材や場所の提供等、「お互いに」を重視した関係を築いている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	上布田つどいの家
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3か条としてスタッフの目に付くところに掲示している。基本理念となっており、地域でいきいきとそれぞれが主役であることを目指し、暖かい雰囲気の中で安心して生活ができるよう努めている。	・3か条からなる理念を、各自の名札の裏、玄関や廊下等目につくところに掲示している。 ・採用時の教育で理念を徹底し、スタッフの個性と生活経験を大切に、理念の共有と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、敬老会等地域の行事に参加している。近隣小学校の訪問を受け、交流を続けている。月に2回地域交流スペースでカフェを開催し、地域の方との交流の場を提供している。	・フロアの一角に地域交流の場であるカフェを設け、利用者は地域住民との自然な交流が出来ている。 ・町内会に加入し、老人会への参加、見学会や高校生の職場体験の受入れなど、地域の一員として活動している。	・町内会と防災に関し相互協定を目指して、話し合いが進んでおり、協定が実現し一層緊密な関係が築かれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催された川崎市経済労働局主催の「口腔ケアセミナー」に協力し、地域への情報発信にも努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設事業と共同で2ヶ月に1回開催している。ご家族からの要望を聞く時間も多く取っており、ご家族間の意見交換や悩み相談の機会になっている。年に1～2回、平日に開催し、行政や地域包括支援センターの職員が参加している。	・併設事業所と合同で、2か月毎に主として休日家族を中心に開催している。状況報告の後は、出席者から要望を聴き、家族間の情報交換を行っている。行政の職員が参加しやすいよう、年1～2回は平日に開催し出席していただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係への取り組みとして、川崎市経済労働局主催の口腔ケアセミナー開催に協力した。	・市の担当職員とは、常に運営面で相談して協力を得ている。 ・川崎市が開催する口腔ケアセミナー等の研修には常に参加し、その機会を利用して情報交換をしている。	

上布田つどの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については厚生労働省の指導どおりに対応している。身体拘束廃止マニュアルや委員会も設置し防止に努めている。	・「そのひとらしくのびのびと」の理念の実践に努め、高齢で身体機能が充分でない利用者には、生活リハビリを行い、身体拘束のない介護を徹底している。 ・玄関は夜間は施錠しているが、日中は開けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修を受講したスタッフが施設内で虐待防止の勉強会を行い、日頃から見過ごしていることはないか相互に注意を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方の情報をスタッフ間で共有し、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、重要事項説明書の読みあわせを行い、併せて契約書でも説明しながら行っている。不明な点や疑問な点はその場でも、そのあとでもきちんと聞きお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見をきちんと聞き、対応することはもちろんだが、声に出せない様子もスタッフが汲み取り、個別対応するように心がけている。	・家族は、毎週訪問しており運営推進会議にも参加して、意見や要望を出して貰い、検討した結果を運営に反映している。 ・遠慮がちな家族には、管理者から話しかけている。	

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議で出た意見は、月1回の全体ミーティングでスタッフ全員にも情報共有し、運営にいかしている。定期的にミーティングや打ち合わせを設定し、運営スタッフの意見が出やすい体制を取っている。	・介護の現場は、スタッフが主役、管理者はそのまとめ役の関係を徹底しており、運営に関しても積極的に提言してもらっている。 ・出された意見や要望は、互いにミーティングで共有し、日常の介護や運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を聞く機会として、個人面談の場を設けている。職場環境、条件については、互いの意見交換の場を設け、話し合いを行った。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には理念も含めた研修を全員に受けてもらっている。また研修については外部研修会を中心に数名ずつ参加し、必要な知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のワーカーズ連合会や多摩区ケアマネ連絡会に参加し、ネットワーク作りをするとともに、交流に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意向を確認すると共に、契約前は面談等を通じてご本人の思いを聞き取るようにしている。また契約前には体験入居も設定し、不安を軽減するシステムを取り入れている。		

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用内容をよく説明し、利用のイメージとすりあわせを行っている。また契約書等とは別に、入居のしおりを作成し、日常生活でのずれがないように注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご家族のもっているサービスイメージを良くお聞きし、対応できるかどうかのすりあわせを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅と同じように過ごせるようにスケジュールは極力無くしている。日常的な声掛けの中で、求めているものを感じることもあり、家族に連絡を取ったり、ケアプランに取り込むようにしている。掃除、洗濯や得意な事には一緒に取り組んでいただける支援を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所への訪問時には日常のご様子やその日のご様子をお伝えし、コミュニケーションをとるようにしている。また外出の付き添い等はご家族に依頼し、状態の把握にも努めてもらうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約前に関係各所についての聞き取りを行うこととしている。ご友人等の事業所への訪問も制限せず、また長年の習慣については継続できるように調整している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意思で行動できる利用者が多く、各人の意向を尊重して友人との交流をサポートしている。</li> <li>・来訪者には、居室、リビング、廊下など、気楽に話のできる場所を提供している。</li> </ul>	

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係が困難になりそうな場合には、席替えや机等の配置換えを行い、緩和を図っている。またスタッフが間に入り、場面転換をすることも重要だとスタッフ間で徹底している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約は終了したが、ご家族から今後もボランティアとして声をかけてくださいとの言葉を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族の意向を聞き取り、ケアプランを作成している。その後は日常生活から見直す場合や、サービス担当者会議の中で修正し、意向に沿った計画となるようにしている。	・入居時に家族や本人の要望、意向を把握している。入居後は日常会話を丁寧にわかりやすい言葉で傾聴し、また思いを表現しにくい人については表情や行動を観察して、意見・要望を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前には必ずご本人や家族と話し合いを持ち、生活歴をはじめとして聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を尊重し、イベント等参加への声かけは行うが、強制は行わない。また、日常の生活支援の中でも把握が出来るように努めている。		

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活面で利用者ごとに担当スタッフを決めており、きめ細かく対応できる体制を取っている。業務会議の中で課題や評価について話し合う時間を設けており、ケアプランに反映できるようにしている。	・介護計画は、家族の要望を入れ、担当スタッフが把握した状況を、会議で話し合い、ケアプラン作成担当者がまとめている。 ・日常の利用者の実態、課題を業務会議で検討し、3か月毎にケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は日常の様子を関わったスタッフが必ず記入することとなっている。記入内容はケアマネージャーも確認し、計画の中に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関の医師が月2回、訪問歯科医が毎週訪問し、入居者は診察を受けている。地域交流スペースを利用したり、居室でのご家族の宿泊をお勧めする等、機動的なご利用に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーだけでなく、常に地域の方々との連携を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である主治医と関係作りをしている。往診時は看護師やスタッフが同行し、日常のご様子をお伝えしている。また必要があれば24時間個別で連絡が取れるようになっている。受診結果や服薬の変更については家族に連絡する事となっている。	・入居当初、家族が同行してかかりつけ医を受診しているが、その後は、契約医を主治医とし月1回の定期検診、必要に応じての個別往診にも対応している。 ・職員の看護師を中心に、24時間かかりつけ医、協力医との連携が取れる体制にある。	

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内部で看護職がほぼ毎日勤務する体制を取っており、健康管理をしている。訪問診療医との連携も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と提携や協力の契約をしている。家族との連携や医療機関との関係において、スムーズな入退院に支障がないように受診を通して相互の認識の一致を心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や、終末期に事業所ができることについて、事前に利用者、家族、職員、かかりつけ医等の関係者と話し合っ方針を決め、共有するよう努めている。終末期に対応するため、今後は訪問サービスの強化、ならびに医師や看護師より指導を行う必要がある。	・これまで重度化した利用者はいないが、本人、家族の意向を大切に、事業所ができる範囲で対応する方針を家族に伝えている。 ・今後、医師、看護師の指導を得て、スタッフの対応力の向上に取り組む方針で勉強会を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に対する緊急時マニュアルを設置している。初期対応訓練を定期的に行なう事は今後の課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作っている。夜間想定を含む年2回の避難訓練を行って、災害時の対応を図っている。地域との協力体制については、運営推進会議でも相互の課題として認識している。	・消防署員の立ち会いを得て、小規模多機能施設と合同で、利用者全員対象の訓練を、年2回行っている。 ・地域の町内会と防災に関して相互協力の在り方を協議している。 施設側：避難場所、緊急食の提供 町内会：緊急時の人的応援	

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快感を感じないような言葉使いが基本となっている。入浴時、排泄時にもプライバシーを損ねない対応を心がけている。	・人格の尊重やプライバシーについて会議、勉強会で職員に周知を図っている。 ・言葉遣いは親しみの中にも利用者の尊厳に配慮して、丁寧に対応している。利用者の呼び名は「さん」付けにすることを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が好きなことをして過ごしていただくことを基本としている。利用者が自己決定できるよう声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝の時間は決めていない。基本的には日課やプログラムを決めずに、利用者に合わせたサービス内容となっている。大勢で外出こともあるが、参加不参加は必ず聞き取り、無理強いのないよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを保てるよう、見守り、声掛けを行っている。希望者には月に2回の理美容カットを案内している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とスタッフで買い物、調理、片付けを一緒にすることを基本としている。季節の食材を取り入れるようにしており、庭で収穫したもの（ジャガイモやにがうり等）を提供することもある。嗜好がある場合や形態には個別に対応をしている。	・毎回利用者の要望を聞いて献立を考え、希望する利用者と食材の調達に出かけている。 ・利用者は、調理から後片付けまでを、職員と一緒にこなしている。 ・外食、誕生日の行事食なども楽しみの一つである。	

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェック表で食事量や水分量の記録をしている。食事の摂取状況は、訪問診療に情報提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前には健口体操を行い、機能維持に努めている。毎週訪問歯科を受診し、定期的に口腔内のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	居室内にトイレを設置しており、個別で対応している。失敗される場合も散見されるが、本人のプライドを傷つけないように対応するよう心がけている。	・排泄チェック表で、パターンを把握して、早めに声かけし自立に向けて支援している。 ・利用者は居室のトイレを使用しており、プライバシーを尊重して、さりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者の状況に応じて、水分補給を促すなど個別に対応している。献立を決める際にも便秘予防としての食材を取り入れるようにしている。また、週3回朝食時に乳酸菌飲料を飲んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は個浴の為、ゆっくり入浴していただいている。声掛けをして拒否があった場合は、無理をせず時間をあけてお勧めするようにしている。また併設事業の檜風呂にお誘いしたり、声掛けを工夫している。	・週3回を目安に、利用者の希望を聞いて午後入浴している。毎日入る方もいる。 ・入浴を好まない人には、タイミングをみて声を掛けている。 ・季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯などを楽しんでいる。	

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠や夜間の不眠が見受けられる場合は、往診時にDrに報告しているが、一概に眠剤に頼る事のないようにしている。生活リズムは個人により違うため、夜勤者が話し相手になったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は専門職である看護師が行う事を基本としている。服薬管理表を作成し、服薬のダブルチェック確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で、掃除、洗濯物たたみ、料理の手伝い、後片付けなど一人ひとりに合った役割に利用者が取り組めるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と体調に応じて散歩する事は多い。また車を使った外出や日用品の買い物も一緒に行くようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候や利用者の状態をみて、週1回の割合で散歩している。</li> <li>・利用者の希望で、近隣の商店へ食材などの買い物に出かけている。</li> <li>・併設の小規模多機能の方と一緒に深大寺や市主催の音楽会をでかけることもある。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持される方もいれば、お預かりして要請に応じてお渡しする方もいるが、個々のご入居者やご家族にお任せしている。		

上布田つどいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望とご家族の了承があれば電話をしたり、手紙を作成し、お友達に送るための支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物や雛飾りなどで季節感を出す工夫をしている。暖かな陽が差し込む縁側では、入居者同士がソファに座りおしゃべりを楽しむ姿もみられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日当たりの良い縁側にはソファを置き、日向ぼっこをするなど寛ぎの場になっている。</li> <li>・壁面には、習字や季節の折り紙など利用者の作品を飾り、室温は23度に設定し、加湿器を使って快適に過ごせるように配慮している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側にソファ等を置き、人の気配を感じながらみんなと離れる空間作りをしたり、併設事業所で過ごせるような配慮もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み備品はなじみのあるものでお願いしている。またご本人が大事にされていたものは極力ご持参いただくようにしている。ADLに合わせて、必要な物をご家族に用意して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の居室にはトイレ、洗面台、押入れが設置されている。</li> <li>・利用者は、馴染みのベッド、整理タンス、テーブル、椅子、縫いぐるみなど、好みのものを持ち込み、写真や趣味の作品を飾り、居心地の良い部屋にしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを取り入れている。手すりや車椅子のまま使用できるトイレを設置し、身体状況の変化にも対応できるようにしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 上布田つどいの家

作成日 \_\_\_\_\_

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	自33 & 外12	利用者が重度化した場合や終末期に、関係者と話し合っって情報を共有している。 今後は、医師や看護師から指導を得る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院時のSWとの提携。</li> <li>・ADLの低下に対応するための介護技術の向上。</li> <li>・施設内の環境の整備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師、介護リーダーによる一般職への研修の実施。</li> <li>・福祉用具の見直し。</li> </ul>	1年
2	自2 & 外2	地域密着型の事業として、もうワンステップ上の連携をしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内と災害時の応援協定を締結して、連携を強化していく。</li> <li>・運営推進会議に参加して頂いて理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者より、町内へアプローチしていく。</li> </ul>	6か月
3					
4					
5					